

北海道浮魚ニュース

平成21(2009)年度5号 (通巻 No. 276)

2009年 6月30日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

◎道南太平洋スルメイカ北上期調査結果

スルメイカの分布密度は、下北半島東沖で 2002 年以降最も高い値を示したが、木直沖では漁獲がなかった。魚体サイズは昨年および過去 5 年平均に比べ大きい。

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：2009年6月24日～6月26日
- ・調査海域：道南太平洋（渡島半島沖～日高沖～下北半島沖）
- ・調査船：金星丸（151 t。イカ釣機 5 台、イカ用集魚灯 20 灯装備）

漁獲調査は 2 地点（St.1、St.8）で実施し、過去の結果と比較しました。

1. 水温分布

今回及び昨年同時期の水温分布及び漁獲調査の結果を図 1 及び図 2 に示しました。表面水温は、下北半島沖に 16℃を超える水温の高い海域がありましたが、昨年に比べ全体的に調査地点間の水温差は小さくなっていました。水深 50m 層では、浦河沖 St.15 周辺に昨年に比べ 3℃ほど水温の低い海域が見られました。

2. 分布密度

荒天のため、木直沖 St.1 及び下北半島

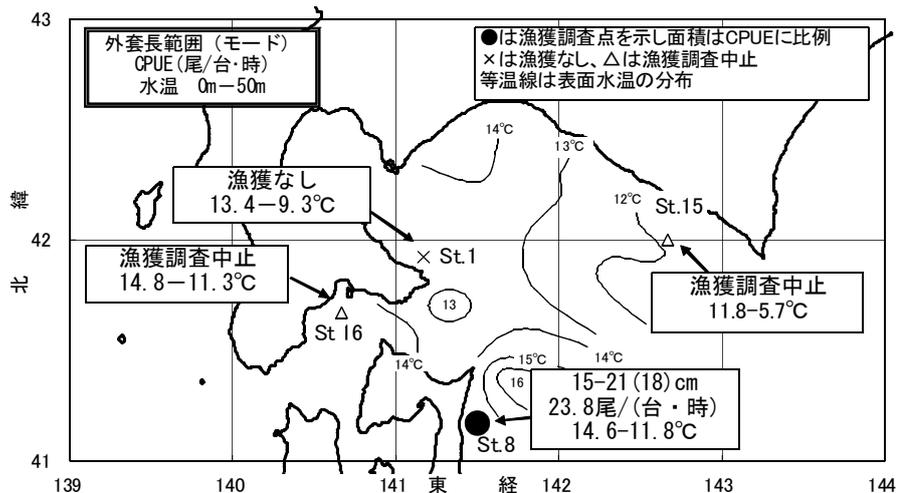


図1 2009年度の漁獲調査結果と水温 (6月22-26日)

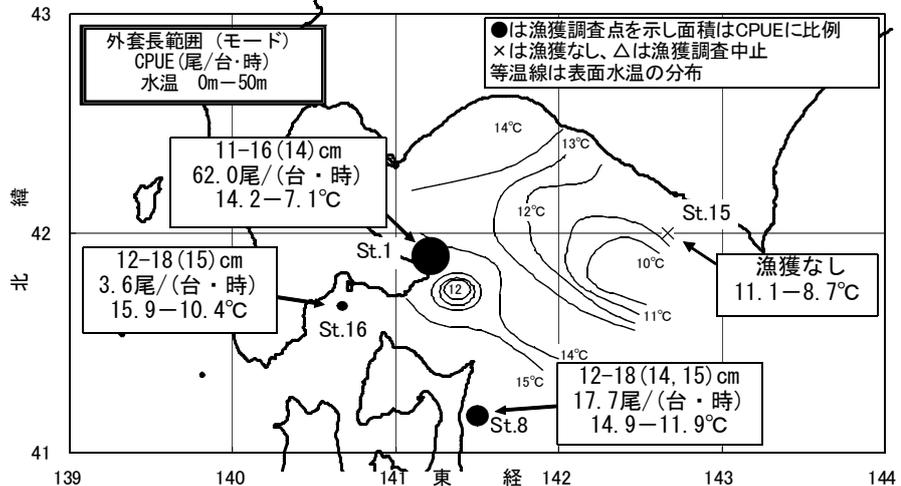


図2 2008年度の漁獲調査結果と水温 (6月26-30日)

表1 スルメイカ漁場一斉調査（道南太平洋6月）のCPUEと外套長の経年変化

	2002 6/24-28	2003 6/23-27	2004 6/21-25	2005 6/20-24	2006 6/19-23	2007 6/25-29	2008 6/26-30	2009 6/24-26
St.1(木直沖)CPUE	0.5	2.2	4.3	0.1	0	10.5	62.0	0
St.8(下北半島東沖)CPUE	2.3	1.3	-	0	0.1	4.5	17.7	23.8
St.15(浦河沖)CPUE	10.4	10.2	16.9	0	0	18.1	0	-
St.16(函館沖)CPUE	4.3	-	-	3.9	6.1	24.2	3.6	-
全調査点平均CPUE	4.4	4.6	10.6	1.0	1.6	14.3	20.8	11.9
St.1, St.8 平均CPUE	1.4	1.8	4.3	0.1	0.1	7.5	39.8	11.9
外套長の範囲(cm)	13-21	10-20	13-21	12-17	12-17	10-21	11-18	15-21
外套長モードの範囲(cm)	15-17	14-17	18	14	15	16-17	14-15	18

東沖 St.8 の2点のみで調査を行いました。CPUE（2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数）の値は、St.8では23.8と昨年（17.7）を上回り、調査が現在の形になった2002年以降のこの調査点の値としては最も高くなりましたが、昨年CPUEが62.0と最も高かったSt.1では今回は漁獲がありませんでした。両地点の平均CPUEは11.9で昨年の同じ調査点の平均（39.8）を下回りましたが、2002年以降の同じ調査点の平均としては2番目に高い値でした（図1、図2、表1）。

3. スルメイカの大きさ

漁獲されたスルメイカの外套長の範囲は15～21cm（昨年11～18cm）、海域全体のモード（最も多く漁獲されたイカの大きさ）は18cm（昨年14cm）で、いずれも昨年及び近5年平均より大型でした（図3、表1）。

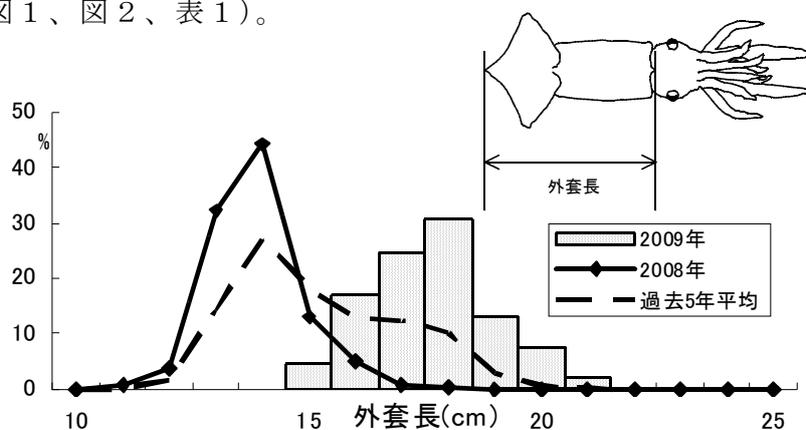


図3 調査海域全体の外套長組成

4. 標識放流

6月25日の下北半島東沖 St.8 で459尾のスルメイカ標識放流を行いました（図4）。標識のついたイカを発見されましたら函館水産試験場調査研究部までご連絡下さい。その際、以下のデータについて、可能な範囲で構いませんのでご報告願います。

- ①標識の形状と番号（必ず）
- ②再捕日時
- ③再捕場所（分かれば緯度経度）
- ④再捕の方法（釣り、定置網等）
- ⑤再捕個体の外套長
- ⑥再捕個体の体重
- ⑦再捕個体の性別

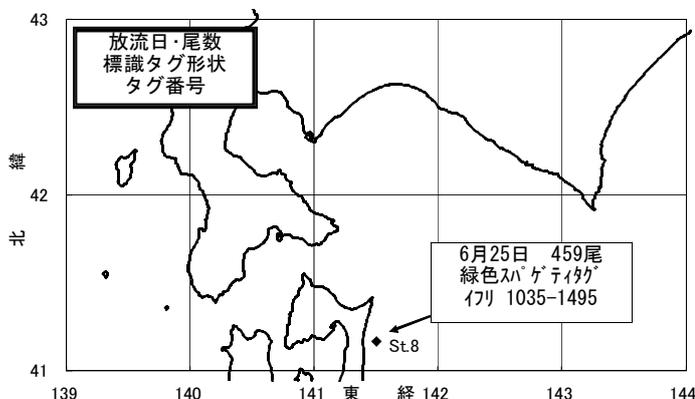


図4 2009年道南太平洋スルメイカ標識放流地点

（文責：函館水産試験場調査研究部、TEL：0138-57-5997 直通、FAX：0138-57-5991）